訪問リハビリテーション

homevisit rehabilitation

[訪問看護ステーションひまわり・熊リハ病院]

熊本リハビリテーション病院
訪問リハビリテーションの **6つの特徴** をご紹介します

企画・構成－市瀬郁子（訪問リハビリテーション部）、槌田義美（リハビリテーション部）

その1 言語聴覚士を含む14人のリハビリテーション専門職による訪問リハビリテーション

理学療法士5名、作業療法士7名、言語聴覚士2名の14名で2事業所から訪問リハを行っています。利用者に状況応じて「訪問看護ステーションひまわり」か「熊リハ病院訪問リハ」で訪問しています。医療保険、介護保険どちらにも対応しています。

訪問看護ステーション ひまわり

看護師の定期訪問があり
リハと看護で連携し
療養支援を行います

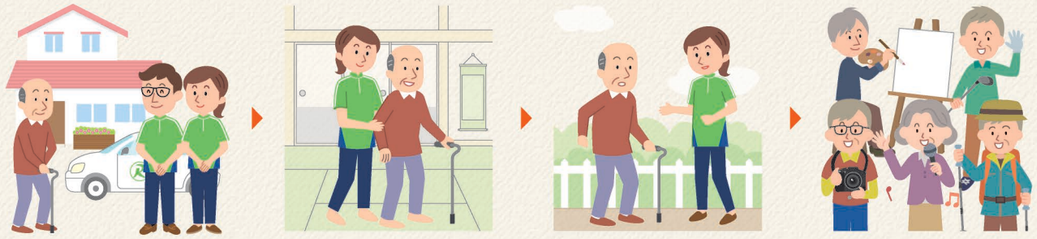
熊本リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション

当院かかりつけの方
当院退院後の短期集中リハを
行います

その2 短期集中リハで社会参加を支援

退院後の早期から短期集中リハを行い、通所、地域支援事業、集い・通いの場、就労支援事業への移行を支援します。

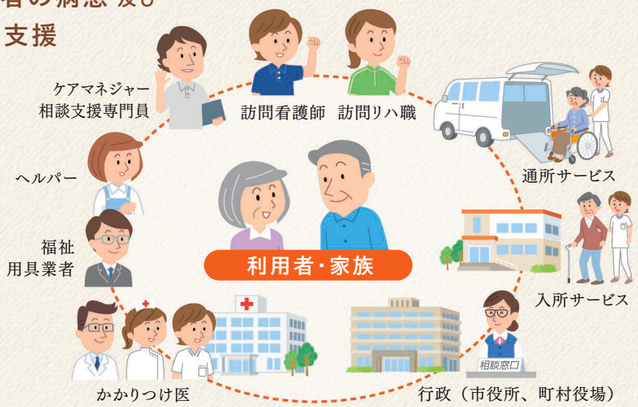
令和3年度の訪問リハ修了者は122人でした。28人の利用者はあらたに通所利用を開始されました。また1年以内で目標を達成し修了した利用者は78人、うち6割が病院を退院直後の利用者でした。



自宅へ訪問 ▶ まずは自宅内生活の定着 ▶ 屋外活動に向けた練習 ▶ 社会参加

その3 難病、頚髄損傷、終末期の利用者の病態 及び ライフステージに寄り添う長期の支援

訪問リハビリテーション利用者全体の約3割が難病、頚髄損傷、終末期の利用者です。利用者や家族の「どう過ごしたいか」に寄り添うために、関係機関との連携を行います。協働する中で訪問リハビリテーションの役割として、生活環境の調整や病態に対応したリハビリテーションを行います。



その4 暮らしやすさの提案（住環境調整）

身体状況、生活環境、生活スタイルに合わせ、安全で暮らしやすい環境調整を提案します。
ケアマネジャー（介護保険）、相談支援専門員（障がい福祉）、福祉用具業者と連携し対応します。

環境調整例（トイレ）

動作能力に合わせた改修

上肢機能低下により足で操作するため
トイレリモコンを床へ設置

座位姿勢の安定のためクッション設置

居室の一角を排泄コーナーへ

てすり設置困難箇所には天井と床で支持する
てすりを設置

その5 訪問リハビリテーションがない日も毎日がリハの日

訪問リハがない日の過ごし方（家庭内役割、趣味活動、自主練習、宿題）を提案し、いきがいや楽しみを一緒に考えます。

楽しく取り組める宿題

自主練習プログラム

その6 家族（介護者）に対する支援

介護者が困っていることに対し相談を受け、介護方法をアドバイスします。
訪問リハビリテーションは実際の生活場面で利用者、介護者と一緒に取り組めることが大きな特徴です。
住み慣れた自宅のいつも過ごしてる場所（居間、寝室、トイレ、浴室、玄関、台所など）で動作練習を行い、利用者が自分でできること、介助が必要な場面を示し、介護者と一緒に練習を行います。